茨木市立　太田中学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成３０年１０月作成

1 ３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」をさらに深化していく	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ・学びのシンポジウム実施 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	●グローイングアッププラン３年間の総括・検証 ○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○他教科・校種間連携 ・１つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施
確かな学力の育成	意欲的に学ぶ	・小中合同授業研や公開授業・校内研修 ・「好き」といえる生徒の姿の研究 ・各教科における「書く機会」の設定 ・ユニバーサルデザインに基づく授業づくり ・生徒主体の授業づくり・朝の読書 ・基礎・基本の定着・家庭学習の定着 ・長期休暇を利用した学習指導	グローイングアップ３か年計画の中間総括と計画の見直し	グローイングアップ３か年計画の総括と検証
豊かな人間性を育む	進路を切り拓くために必要な力をつける	○道徳教育・人権教育の推進 ・行事や集団作りなど、生徒の活動に生かせる道徳教育の推進 ○キャリア教育の推進 ・進路を自分で切り拓くために必要な力について検討する。 ・「自立」を促すしかけをつくる。 ○豊かな人間性を育む教育 ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。	○道徳教科化に向けて ・多様な指導方法による授業づくりの模索 ・道徳科評価について ○キャリア教育の推進 ・進路実現に向けて必要な力をつける取り組みを見直す。 （「計画力」をテーマに） ○豊かな人間性を育む教育 ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。	○教科としての道徳教育 ・「考える道徳」「議論する道徳」 ○キャリア教育の推進・実践 ・前年度までに取り組んだことを、意識して実践し検証する。 ○豊かな人間性を育む教育 ・他者理解や福祉体験の取りみを系統立てて行う。
健康・体力の増進	いろんな種目にふれる・やってみる！苦手でも好き！生涯にわたって、	●苦手・好きを知るためにやってみる〈課題発見〉 ・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」５分間走の実施。 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施。 ・体力向上プロジェクト 中津小学校授業研修	●好きを増やす〈実施・実践〉 ・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・「体育好き？」アンケートの実施 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」５分間走の実施。 ・体力向上プロジェクト	●3か年計画の総括・検証〈結果〉 ・年間授業計画の見直し ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・「体育好き？」アンケートの実施 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」５分間走の実施。 ・体力向上プロジェクト
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
「漢字を読む（磨く）」
「適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。一方，妹は一人で本を読むことが好きだ）」
・もっとも正答率の低かった設問
「「心を打たれた。」を文末に用いた一文を，主語を明らかにし，「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く」
・もっとも無解答率の高かった設問
「漢字を書く（先制点をユルす）」
・正答率が全国平均より大幅に上回った設問
「適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）」

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
良好な結果であった

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった

②記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
「二人の質問の意図として適切なものを選択する」
・もっとも正答率の低かった設問
「「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く」
・もっとも無解答率の高かった設問
「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く」
・もっとも無解答率の低かった設問
「グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する」
「複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する」
「二人の質問の意図として適切なものを選択する」
「登場人物についての説明として適切なものを選択する」
「文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する」

分析

A 問題・B 問題とも結果は概ね良好であり、全国平均の正答率を上回った。

A 問題においては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」すべて良好であった。特に敬語や接続詞の働きに関する問いの正答率が高く、この分野に関してはかなり高い知識が見られた。ただし、目的に応じて文の成分を考えて適切な文を書く力、行書の書き方への理解は十分ではなかった。

B 問題においては、「話すこと・聞くこと」の観点の正答率が高く、日ごろからスピーチやグループでの発表に取り組んだ成果が見られた。また B 問題への無解答率が、どの問題に対しても全国平均より若干低く、課題に取り組む意欲が育っていたと考えられる。授業での大きな成果と捉え、今後も記述課題に積極的に取り組みたい。

今後は、引き続き基礎を大切にした授業を展開し、語彙力や考える力、書く力を培っていくとともに、書写指導にも真摯に取り組みたい。

○●数学●○

数学A

（領域ごと）

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

○もっとも正答率の高い設問

「6a2b÷3a を計算する」

○もっとも正答率の低い設問

「１枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について，正しい記述を選ぶ」

○もっとも無解答率の高い設問

「比例のグラフから，x の変域に対応する y の変域を求める」

○もっとも無解答率の低い設問

「数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る」「２×(－５２)を計算する」

「ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ」「ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ」

「与えられた円柱の見取図から，その円柱の投影図を選ぶ」「底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について，正しいものを選ぶ」「三角形の外角を表す式を選ぶ」「五角形の１つの頂点を動かし，角の大きさを９０°に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ」「長方形で成り立ち，ひし形でも成り立つことを選ぶ」

数学B

（領域ごと）

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

○もっとも正答率の高い設問

「はじめの数が１０のときの計算結果を求める」

○もっとも正答率の低い設問

「通常料金をａとしたときの団体料金の１０人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び，その理由を説明する」

○もっとも無解答率の高い設問

「A駅からの道のりが６ｋｍの地点において，列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する」

○もっとも無解答率の低い設問

「列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ」

分析

数学Ａは，概ね良好な結果であった。「関数」の領域においては全国平均の正答率を上回っていたが、「資料の活用」「数と式」「図形」では全国平均を下回っており、基本的な計算力や考え方に課題があるように考えられるが、著しく低い数値では無いので、今後の授業で重点的に基本的な計算力や考え方が身につくような指導を心掛け、改善を目指す。また、「絶対値の意味」を問う問題の正答率が全国平均より大きく下回ったこともふまえ、計算ばかりではなく細かい語句などの扱いも本校の数学科で統一した指導を行っていく必要がある。

数学Ｂも，概ね良好な結果であった。全項目で全国平均をすべて超えている。短答式問題と記述式問題の正答率については大きな差はなかったが、問題ごとに見ると証明や理由の説明などの問題で少し低めの結果がでており、記述式の問題に関して不安の残る結果となっている。無解答率に関しても、同様の問題で全国平均より低めの数値になっているので、既存の入試問題に併せて，問題解決学習などグループワークなどを通じ，思考力や表現力などを養っていく必要がある。

○●理科●○

理科

（領域ごと）

①物理分野

概ね良好な結果であった

②化学的分野

概ね良好な結果であった

③生物的分野

概ね良好な結果であった

④地学的分野

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

やや課題が残る結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

○もっとも正答率の高い設問

「豆電球と豆電球型のＬＥＤの点灯の様子と電力との関係を指摘できる」

○もっとも正答率の低い設問

「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」

○もっとも無解答率の高い設問

「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」

○もっとも無解答率の低い設問

「光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる」「テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し，適切な光の道筋を説明することができる」

分析

「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、どの領域においても、概ね良好な結果となった。しかし、記述式で解答する問題は課題の残る結果となった。

正答率の高い問題は授業で習得した知識や体験した内容を問う問題であった。正答率が全国平均より高かった問題は、知識理解の観点から自然現象について出題されたものであった。正答率の低かった問題は、科学的な思考・表現の観点から出題されており、資料を活用して既習内容と結びつけて分析することや自分の考えを表現することを求められる問題であった。また、食塩水の濃度に関する問題など、計算力にも課題が残った。これらの結果より、基本的な知識は定着しているが応用力・活用力には課題が残ったと言える。

普段の授業においても、思考する時間を設け自分の考えを記述するように指導しているが、既習内容と結びつけて記述することは難しいと感じている生徒が多い。班活動を取り入れたり、記述に対する苦手意識を改善できるように、段階を踏んでステップアップしたい。

○●経年比較●○

【全体的な傾向についての分析】

正答率は年度によって多少の差はあるが、数年間で比較するとほぼ横ばいとなった。昨年の結果よりは高い値を示した。全国平均と比較すると国語A，国語B、数学Bは高く、数学A、理科は低い結果となったが、この国語AB数学ABを平均した結果は全国平均より高い結果となった。4教科とも全国平均との差はわずかで、ほぼ全国平均に近い値となった。

無解答率は昨年度より減少した。

【学力高位層と学力低位層、エンパワー(EP)層についての分析】

高位層の割合は年度によって差はあるが、数学Aを除くすべての教科で、全国平均より高い結果となった。

低位層の割合はすべての教科で、全国平均より低い結果となった。また、昨年度より大幅な減少となる結果となった。

国語Aにおいて、高位層と低位層の差が大きくなり、その他すべての教科では大きな差は見られなかった。

○●取組み●○

【学力向上に関する取組み】

・中学校ブロックで連携し、小中合同授業研や公開授業を行う。
・小中連携により９年間を見据えた授業作りを目指す。
・校内研修を行い日々の授業に役立てる。
・生徒主体の授業づくりを進める。
・ユニバーサルデザインに基づく授業づくりを進める。
・各教科において「好き」といえる生徒が増える取組みを研究する。
・各教科において「書く機会」を設け、苦手意識の克服を目指す。
・基礎学力の定着を目指して「鉄人テスト」を行う。
→基礎内容の復習を定期考査２週間前から取り組み、定期考査に向けた学習をスムーズにスタートすることを目指す。「できた」を実感し、前向きに取り組む姿勢を育む。
・既習事項の確実な定着を目指した、定期考査前の補充学習を実施する。
・活字に親しむ機会を増やすとともに、１日の生活をスムーズにスタートさせるため朝の読書を行う。
・宿題の提出を徹底するために、未提出者への声かけや放課後の学習指導を行う。
・学校と家庭で連携し、家庭学習の定着を目指す。そのために「１週間の提出物」を習慣化させる。
・長期休暇を利用した、学習指導を行う。

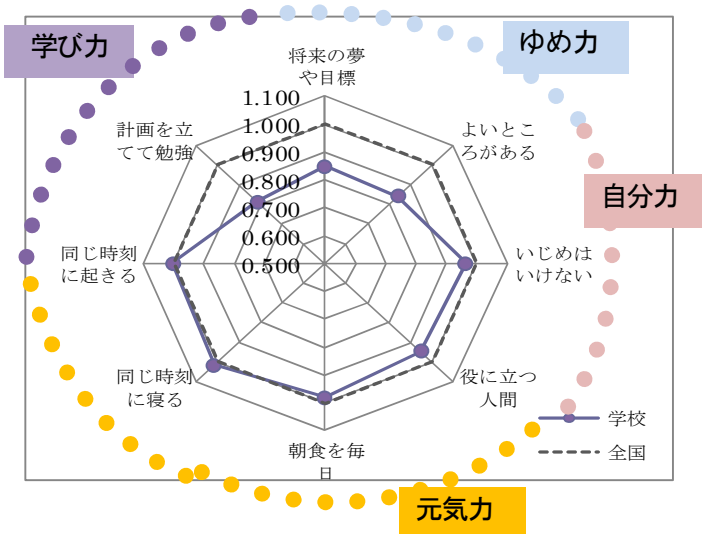
【国語】
・古文に慣れ親しむため、暗唱して声に出すことに慣れさせる。（百人一首も活用）
・文章を書くことへの苦手意識をなくすために、様々な場面で書くことを実践していく。
・語彙力を増やすため、読書活動を生徒に勧めていく。
・漢字の確認テストを定期的に行い、漢字の読む・書く力をつける。
・各単元ごとに、内容の確認と応用力の育成のために課題を設ける。

【数学】
・基本的な計算力や思考力をつける取組みを引き続き行う。計算演習の授業などを設定する。
・身の回りの事象を取り上げ、数学的な方法を用いて解決するような問題解決型学習を取り入れる。
・計算だけではなく記述式問題を増やし、自分の考えや解き方を説明するような授業づくりやテスト作りを進める。

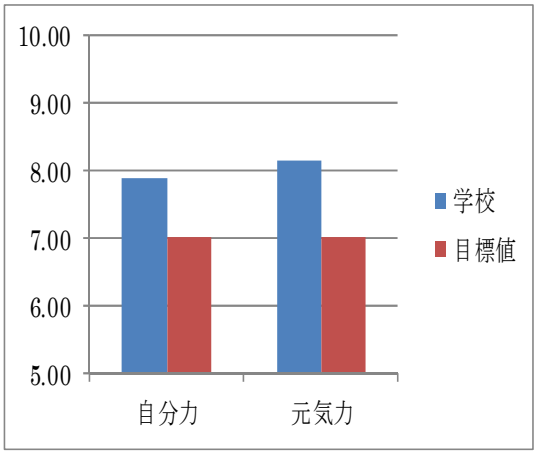
【理科】
・予想や仮説を立てて実験・観察を行う。
・実験・観察・様々な現象について、結果を分析する際は既習内容と関連付けて考えられるように指導する。
・資料の分析・活用する時間を設ける。
・教科書の「学びを活かして考えよう」などを使用して、思考する時間を積極的に設ける。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は８項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

ゆめ力…「将来の夢や目標を持っている」は60.8%の生徒が当てはまると答え、課題の残る結果となった。
自分力…「自分にはよいところがある」と答えた生徒は 72.7%となり概ね良好な結果となった。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた生徒は 94.5%、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒は93.2%となり、全国平均よりやや少なかったが、良好な結果となった。
昨年度と比較すると、上昇する結果となった。
元気力…「朝食を毎日食べていますか」では当てはまると答えた生徒は89.0%となり、全国平均を下回る結果となった。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では概ね良好な結果となった。
昨年度と比較すると、ほぼ横ばいの結果となった。
学び力…「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」は当てはまらないと答えた生徒が全国平均を上回った。
テスト前の学習は定着してきているが、普段からの家庭学習についてはまだ定着できていないことがわかる。家庭学習の定着と提出物・宿題提出の徹底をめざしていく。

取組み

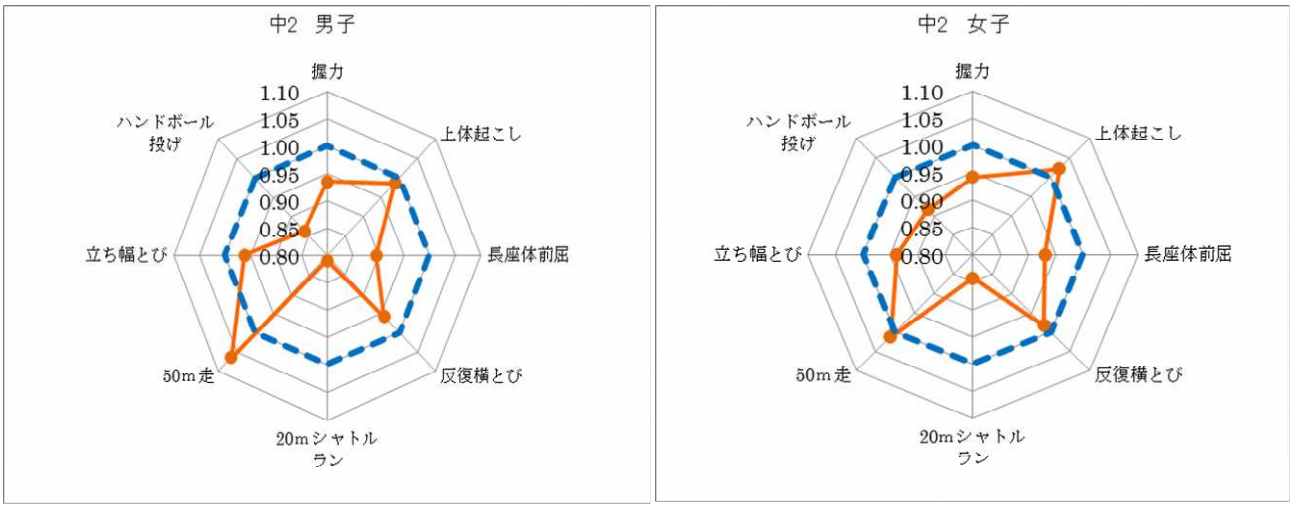
①人権教育の充実と深化
- 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等、全教育活動の中で、人としての生き方を考える。
- 自分も仲間も大切にし、互いに支え合い励ましあい高めあう生徒集団の育成を目指す。

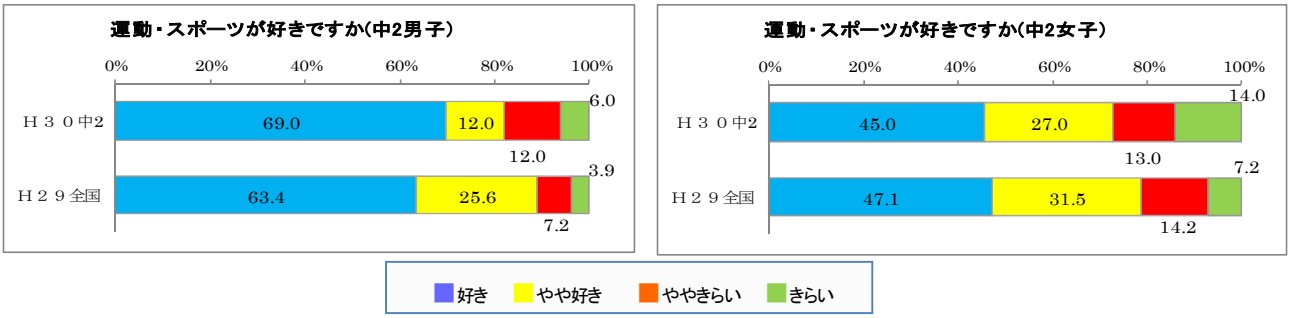
②学び力の向上
- 「学力向上に関する取組み」に沿って進める。
- 学校と家庭で分析結果を共有し、家庭学習の定着と宿題提出の徹底を目指す。
- 学校生活全体で「学ぶ楽しさ」や「学ぶ喜び」、「学ぶ厳しさ」、「学ぶ大切さ」などを体験し、「学ぶことが好き」という生徒が増える取組みを研究する。
- 学校生活全体で「書く機会」を取り入れる。

③生活指導の充実
- 保護者や地域と連携を深めるとともに、生徒が安心して過ごせる学校づくりを目指す。

（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

男子（中2）　○●体力●○　女子（中2）





分析

本年度の 2 年生男女ともに、身長・体重ともに全国平均・府の平均・市の平均と全てにおいて下回っており、運動能力においても課題がある結果となった。

男子は『20mシャトルラン』、『長座体前屈』、『ハンドボール投げ』、女子は『20mシャトルラン』の数値が他に比べて大きく劣っていることがわかる。柔軟性と投力、持久力において課題があることがわかった。

そのなかでも、男子の『50m走』では、全国平均を大きく上回る結果となっており、女子でも『上体起こし』『50m走』の数値は全国平均を上回っている。

運動に関する意識の調査では、『運動・スポーツが好きですか』の質問に対して、「好き」または「やや好き」と答えた生徒が、男子では 81.0%、女子では 74.0%と、全国平均の数値よりも下回る結果となった。

自ら積極的に運動やスポーツに親しみを持って取り組むことのできるよう、教材研修を進めていく必要がある。ボール遊びや体を動かして遊ぶことのできる場所が減ってきている今、学校体育のなかで多くの領域の運動を積極的に挑戦し、生涯にわたって続けられる運動を見つけ実践していくことが大きな課題といえる。

取組み

・新体力テストを継続して実施し、個々の体力を分析・検証する。また、小学校からのデータを引き継ぎ分析・検証する。
・毎時間の体育授業時に実施している『補強運動(ランニング・腕立て・腹筋・背筋・馬跳び)』の充実を図る。
・体幹トレーニングを積極的に取り入れる。
・授業時の球技のときに『投げる』動作の練習を積極的に取り入れるようにする。
・駅伝・マラソン大会を継続して実施する。
・年間授業計画に、球技種目を積極的に取り入れるようにする。
・クラスマッチの種目に積極的に球技を取り入れるようにする。
・授業で長距離走を実施し、タイムトライアルも積極的に取り入れるようにする。
・1・2 年生において、駅伝マラソン大会を実施し、持久力の向上をめざす。
・さまざまな領域の運動を実施し、生涯にわたって運動を続けられるよう手助けする。
・小学校の連合運動会の練習のため、陸上部の出前指導を実施する。